

世界 40 か国で団結 ——渋谷センター街で最賃1500円に引き上げろ！

ファストフードなど低賃金労働者の最低賃金大幅引上げを求める「ファストフード・グローバルアクション」が、4月14日、15日に行われた。今回で3回目となるこの行動は、過去最大規模の6大陸40か国300都市以上で労働者たちが声をあげた。

東京では、15日に渋谷センター街とハチ公前でのアピール行動が行われ、地域によって格差がある最低賃金をまず「いますぐどこでも1000円」にしたうえで、最終的には1500円を目指すことを訴えた。

下町ユニオンの加瀬純二さんは、「先進国では最賃は1000円以上が当たり前、日本の最賃は平均798円、東京は907円、これで暮らしていけるのか。労働者と家族が生活できるために最賃を1500円に引き上げよう」と道行く人々に訴えた。

札幌の病院で働いている岩崎さん(女性25歳)は、「私は正社員で時給900円台。北海道では非正規雇用は4割超で、700円台で働いている人も多く奨学金の返済も出来ない若者もいる。1500円は夢のような話だが、それでも手取りでは年収300万円を切る。渋谷の町を歩いているみなさんも一緒にアピールしよう」と呼びかけた。

また、夕方から行われた当夜祭では、海外からのアピール行動のビデオや連帯メッセージが紹介されたほか、労働契約法20条裁判をたたかっている東部労組メトロコマース支部や郵政産業労働者ユニオンの仲間なども加わり、運動を広げていくための熱い討論が行われた。

【解説】この運動の発端は米国。2012年11月以降、全米100都市以上でファストフード労働者が最低賃金15ドル(約1630円)以上を要求してストライキを決行。全米に最低賃金引き上げの運動やストライキが広がり、ニューヨーク州やカリフォルニア州では実際に時給15ドルの法制化を行った。(HT)

◆当夜祭の討論のひとつ

渋谷センター街で配布された「お札型・A4版3つ折」のチラシ(左の写真)は、お札のようで、あるいはマックのの割引券のようで取りが良かったと、当夜祭で報告された。

作成者から、「以前、配布したチラシは取りが悪く失敗した。全く興味のない人が、どうしたら興味を引くか、どうしたら喜ぶかを考えた」「シールズは、伝え方が大事と、見出しの文字一つひとつにもこだわって討論する」などの話があった。

